

富士山の恵みの水 柿田川自然観察会

令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策のために開催を見送りましたが、令和4年度は感染防止対策に留意しての実施となりました。



観察会の様子

例年同様、公益財団法人柿田川みどりのトラスト及び柿田川自然観察の会を案内役として迎え、8月20日(土)に実施しました。家族を対象に募集を行い、多くの方々に御参加いただきました。柿田川みどりのトラストの漆畑会長(ふじさんネットワーク副会長)から、柿田川の自然についての説明後、シシマバイカモ等の貴重な植物は採取せず、その



場での観察だけにしてもらいたいことや、昆虫や魚類等の生物は、捕まえて観察した後は、必ず放流して欲しい、というお願いがありました。

参加者は川に入り、タモで魚やモクズガニ、ヌマエビなどの様々な生物をつかまえ、バケツに入れて観察していました。以前は、動植物を水槽に集めて観察をしていたのですが、今年度も密集を避けるために実施しませんでした。

夏の日差しの下でしたが、冷たい湧水に入りながら自然観察ができ、参加者の皆様にとって、思い出に残る夏の体験になったのではないのでしょうか。



捕まえた生物の観察

外来植物撲滅大作戦ーの 実施について

今年度第1回目の外来植物撲滅大作戦を、7月3日(日)に水ヶ塚駐車場で行いました。



参加者の除去作業状況

講師には(株)環境アセスメントセンターを迎え、16人が参加して外来植物の除去を行いました。

一見すると葉の花のように見える『ハルザキヤマガラシ』という外来植物が、この周辺では分布を拡大しています。元はヨーロッパの山地に生育している種類のため、比較的寒さに強く、富士宮口の五合目付近でも発見されており、注意が必要な種類だと考えられます。

水ヶ塚駐車場では、令和2年度に行



政職員等の関係者による外来植物除去活動が行われており、『ハルザキヤマガラシ』をはじめとした外来植物が以前よりも減少しているのが視覚的にわかる状態の所もあります。今回除去したところによって、更に減少することが期待されます。

亜高山帯以上に生育する希少種を守るためには、このような外来植物が、五合目以上に持ち込まれないよう、分布拡大の最前線や、種子の供給源になり得る場所の除去を行う必要があります。

今後も、撲滅大作戦等とおして、外来植物対策の普及啓発を行っていただきますので、皆様も御協力お願いします。



除去作業後の計量